

「自ら家を解く」韓国

「自ら家を解く」という表現がある。江戸城の無血開城を主張した勝海舟に対して福澤諭吉は「敵に向て嘗て抵抗を試みず、只管和を講じて自から家を解きたるは、……数百年養い得たる我日本武士の氣風を傷うたるの不利は少々ならず」と記す（『瘡我慢之説』）。

朝鮮半島において強い国力をもつのは韓国であり、北朝鮮は「飢餓の国」である。にもかかわらず、韓国の北朝鮮への対応はやけに迎合的で、阿諛追従の域に入らんとしている。二〇一〇年の韓国哨戒艦沈没事件では魚雷攻撃により五〇名近い兵士が殺害され、同年には延坪島砲撃事件が起こって軍民双方に多数の犠牲者を出した。しかし韓国の反撃はなかった。平昌五輪前後の文在寅政権の親北姿勢は底気味悪い。しかし、韓国人の深層心理を覗き込んでみればこれもわからないでもない。

韓国人は大韓民国という国家の正統性に何か胡乱なものを感じているのであろう。大韓民国は自力で独立した国家ではない。第二次大戦における日本の

渡辺利夫（拓殖大学学事顧問）

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学・東京工業大学教授などを歴任。拓殖大学国際開発学部学部長、学長、総長などを経て、二〇一五年十二月より現職。

敗北によって思いがけずも転がり込んできた独立である。ここにはインドの対英独立闘争とかインドネシアの対蘭独立戦争といった美しい建国の物語がない。対照的に北朝鮮はどうかといえば、金日成という人物が満州で抗日パルチザン闘争を指揮、日本軍に果敢に立ち向かって、日本敗戦の後に半島に凱旋、権威と権力において並ぶものなき建国者となったという物語がある。もちろん嘘話である。

そんなことがどうしてわからないのかというのが通常の日本人の感覚だが、自国の建国のありようにどうにもしっくりした気分をもてない韓国人は、建国の正統性は韓国ではなく北朝鮮にあるというセンチメントの畏にはまりやすいのであろう。金日成による「主体思想」なるものが北朝鮮の「唯一思想」である。韓国にもこれに同調する左派系の人びとが少なくない。北朝鮮の対南工作は容易である。聞けば対南工作阻止の司令塔「国家情報院」の解体が文政権の視野の中に入っているらしい。韓国が北朝鮮に対して「自ら家を解く」時期が近づいている。